

カツオ 大西洋

Skipjack *Katsuwonus pelamis*



管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

生物学的特性

- 最大体長・体重：尾叉長 100 cm・15 kg
- 寿命：6 歳以上
- 性成熟年齢：満 1 歳ですべて成熟
- 産卵期・産卵場：周年・表面水温 24°C以上の海域
- 索餌期・索餌場：熱帯～温帯域
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者：マグロ・カジキ類、サメ類、海鳥類等

利用・用途

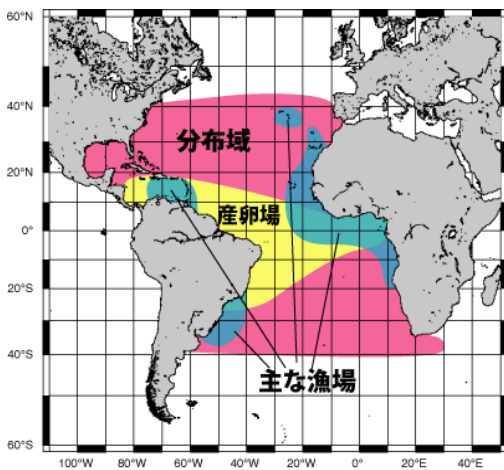
缶詰等の加工品

漁業の特徴

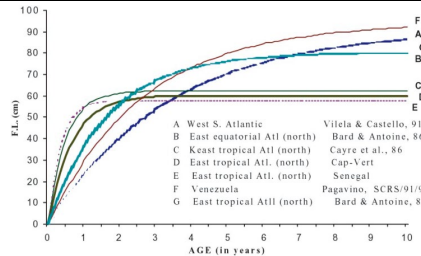
主要な漁業は、東部大西洋ではスペインのまき網、ガーナ、スペイン等の竿釣り、西部大西洋ではブラジル等の竿釣り、ベネズエラによるまき網である。ひき縄やはえ縄でもわずかに漁獲される。東部大西洋では、近年パナマの漁獲量が増加し、ポルトガルよりも多くなった。主な漁場は、アフリカ西岸ギニア湾の赤道を中心とした熱帯域～北西岸モーリタニア沖のまき網漁場と、ブラジル南東岸沖の竿釣り漁場である。まき網は、1991 年から人工浮き漁礁 (FAD) 操業が本格化し、漁獲量が増大した。日本は大西洋でカツオを主対象とした漁業を現在行っておらず、はえ縄で大型のカツオがわずかに混獲されるのみである。

漁獲の動向

年間漁獲量は 1960 年代には 4 千～5 万トン、1970 年代には 5 万～12 万トン、1980 年代には 11 万～16 万トンで推移した。まき網の FAD 操業開始により、1991 年 22 万トン、1993 年の 21 万トンがピークで、1995 年から 2000 年代にかけては 12 万～19 万トンで推移した。2011 年以降、漁獲量は 20 万トンを超えるようになり、2022 年には 29.3 万トンを記録した。日本は、1980 年代前半まで東部大西洋で竿釣り操業を行い、1976～1981 年には 1 万～2 万トンを漁獲したが、現在は行われていない。

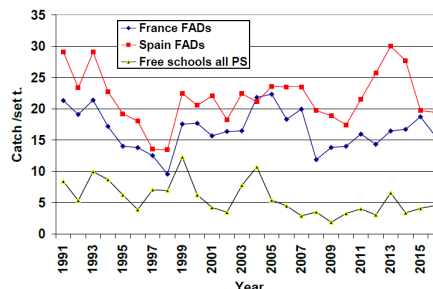


大西洋のカツオの分布域、産卵場及び主な漁場



大西洋のカツオの成長曲線

A～G の曲線は各海域で報告されたカツオの成長を示す。



東部大西洋におけるまき網によるカツオ漁獲量(1操業あたり漁獲量)の推移(1991～2016年)

France FADs: フランスのまき網船・FAD 操業、Spain FADs: スペイン・その他のまき網による FAD 操業、Free schools all PS: まき網による素群れ操業。

資源状態

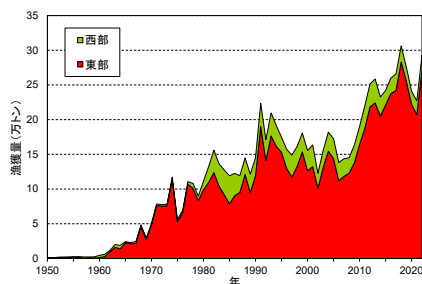
2022年にICCATの科学委員会(SCRS)において資源評価が実施された。大西洋における本種の生物・漁業学的特徴を考慮して東部・西部大西洋の2海域に区分して資源評価を実施した。東部大西洋ではプロダクションモデル(JABBA)及び年齢構成モデル(SS3)、西部大西洋ではSS3を用いて資源評価を実施した。これらのモデルから東部大西洋では B_{2020}/B_{MSY} の中央値は1.60(0.50~5.79)、 MSY が216,617トン、 F_{2020}/F_{MSY} の中央値は0.63(0.18~2.35)となり、資源状態は乱獲状態でもなく過剰漁獲でもない判断された。西部大西洋では B_{2020}/B_{MSY} の中央値は1.60(0.90~2.87)、 MSY が35,277トン、 F_{2020}/F_{MSY} の中央値は0.41(0.19~0.89)となり、資源状態は乱獲状態でもなく過剰漁獲でもない判断された。

管理方策

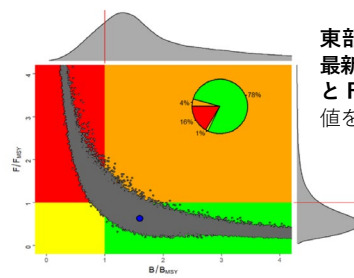
2014年11月のICCAT年次会合において、データ不足に起因する資源評価の不確実性がSCRSから指摘されていることを踏まえ、既存の熱帯まぐろ保存管理措置に含める形で、管理方策が初めて設定されることとなった。それにより、カツオを漁獲する漁船のICCATへの登録、FAD操業の禁漁区・禁漁期等が設定されることとなった。FAD操業の禁漁区・禁漁期は新たなものが2015年に決定、2016年に発行され、2017年より適用され1~2月においてアフリカ沿岸域~西経20度、南緯4度~北緯5度の範囲となっている。2019年のICCAT年次会合において、熱帯まぐろ保存管理措置が改定され、2020年には1~2月の2か月間、2021年には1~3月の3か月間、大西洋全体においてFAD操業の禁止を決定した。FAD数は、1隻当たり一度に350基(2020年)及び300基(2021年)までとなった。2021年のICCAT年次会合において、熱帯まぐろ保存管理措置が一部改定され、2022年においては1月1日~3月13日の72日間のFAD禁漁を決定した。2023~2024年についても2022年のFAD禁漁措置がそのまま適用される。

カツオ(大西洋)の資源の現況(要約表)

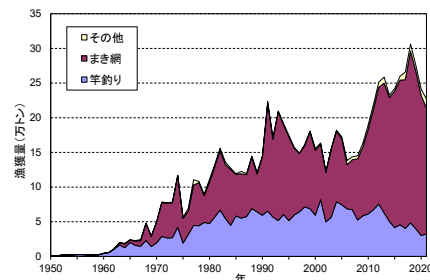
世界の漁獲量(最近5年間)	22.7万~30.6万トン 最近(2022)年:29.3万トン 平均:26.9万トン(2018~2022年)
我が国の漁獲量(最近5年間)	1.9~4.8トン 最近(2022)年:3.4トン 平均:3.2トン(2018~2022年)
資源評価の方法	プロダクションモデル(JABBA) 年齢構成モデル(SS3)
資源の状態(資源評価結果)	$B_{2020}/B_{MSY} = 1.60$ (0.50~5.79) (東部) $F_{2020}/F_{MSY} = 0.63$ (0.18~2.35) (東部) $B_{2020}/B_{MSY} = 1.60$ (0.90~2.87) (西部) $F_{2020}/F_{MSY} = 0.41$ (0.19~0.89) (西部) 東部西部ともに2020年の資源状態は、過剰漁獲及び乱獲状態ではない
管理目標	MSY (216,617トン(東部)) MSY (35,277トン(西部))
管理措置	漁船登録、FAD操業の禁漁区・禁漁期、FAD数制限
管理機関・関係機関	ICCAT
最新の資源評価年	2022年
次回の資源評価年	2025年(予定)



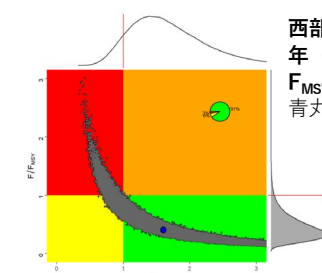
大西洋におけるカツオの海域別漁獲量の推移(1950~2022年)



東部大西洋のカツオにおける最新年(2020年)の B/B_{MSY} と F/F_{MSY} の水準 赤丸は中央値を表す。



大西洋におけるカツオの漁法別漁獲量の推移(1950~2022年)



西部大西洋のカツオにおける最新年(2020年)の B/B_{MSY} と F/F_{MSY} の水準 青丸は中央値を表す。